

農業による地域の活性化

快適な農村環境づくりを進めるとともに、加工品の研究開発や、学校給食、イベントなどを通じた食育・地産地消などにより、地域の活性化につながる農業をめざします。



28年度実績	→	34年度目標
【農業生産額】		
64億円	↗	75億円
【農家戸数（生乳出荷）】		
53戸	↘	44戸
【新規就農戸数】		
0戸	↗	2戸
【農業生産法人数】		
6法人	↗	11法人
【生乳生産量】		
37,884t (24～28年度平均)	↗	49,000t

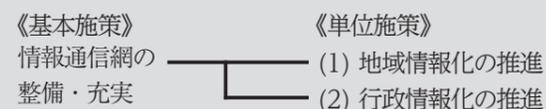
情報通信網の整備・充実

町の情報推進網をとりまく環境

情報化については、平成23年度に町内全居住域への光ファイバー網の敷設により、ブロードバンド（高速・大容量通信基盤）を広く町民が利用できる環境が実現するとともに、地上波テレビ放送のデジタル化に対応した難視聴地域の解消も図られました。平成28年1月からは、マイナンバー制度（社会保障・税番号制度）も開始され、行政事務、窓口サービスでの活用を図るとともに、平成29年4月からは、組織外部との通信、情報共有に関して自治体情報セキュリティクラウドにより、セキュリティ対策の強化を図っています。

一方で情報化については、情報通信技術の利用の有無による情報格差や、わかりづらい課金システムによる無駄な出費、さらには個人情報漏えい被害など負の側面もあります。そのため町民が、複雑な機器・システムをストレスなく、浪費なく、有益に活用していけるよう、情報教育にも力を入れていく必要があります。

基本施策の体系



28年度実績	→	34年度目標
【地域情報化の満足度】		
17.3%	↗	25%
【町ホームページの年間アクセス件数】		
215,000件	↗	220,000件

単位施策の紹介

地域情報化の推進

高度情報通信基盤を適切に保守管理していくとともに、情報通信技術の進化にあわせて、必要な更新投資の実施を検討していきます。無線LANなど、民間の情報通信基盤についても、公益的インフラという観点から、普及を促進していきます。また、町民が、高度情報通信技術を有効に活用していけるよう、情報教育を推進するとともに、IoT、AI、ビッグデータの先進的な活用動向にも注視していきます。

※IoT : Internet Of Things の略。あらゆる物がインターネットを通じてつながることによって実現する新たなサービス、ビジネスモデルのこと。
AI : artificial intelligence の略。人工知能のこと。
ビッグデータ : インターネットの普及や、コンピューターの処理速度の向上などに伴い生成される、大容量のデジタルデータのこと

計画書の全体は町ホームページで公開しています。

なお、希望される方には、基本構想と前期基本計画の冊子を郵送します。 [関財務企画課企画調整係](#)

～郷土愛で築く～「おうむ」次世代躍進プラン

第6期 雄武町 総合計画

◎第6期雄武町総合計画の施策ごとの計画内容についてシリーズで紹介します

5月号では、第6期雄武町総合計画（以下「総合計画」と称する。）の概要を紹介したところです。今月号からは施策ごとの計画内容を全10回のシリーズで紹介します。総合計画の概要については、5月号をご覧ください。

第1回目は、「基本施策①農業の振興」と「基本施策⑩情報推進網の整備・充実」について紹介していきます。

農業の振興

農業をとりまく環境の変化

日本全体の農業が低迷する中で、雄武町は農業生産額が10年間で1.5倍に増加しています。特に基幹となる酪農業において、規模拡大や品種改良による生産量の増加や乳価の値上がりにより、生産額が増加基調となっています。

また、本町では飼料としての牧草やデントコーン、種イモ、ダツタンそばの栽培などが行われており、特にダツタンそばは「作付面積日本一の雄武産」と銘打ち看板商品化されています。

今後、従来からの酪農業を含め、加工や直売などによる地域ブランド化を進めることも重要であり、地産地消を通じた食育などの効果を考える中で、こうした取り組みを進めていくことも必要です。



基本施策の体系



単位施策の紹介

担い手（人・組織）の強化

担い手（人・組織）の確保に向けて、北オホーツク農業担い手対策協議会を中心とした新規就農支援の強化を図るとともに、協業法人化への取り組み支援の継続と、雇用の拡大を図ります。また、地域を支える家族経営の支援も強化します。

